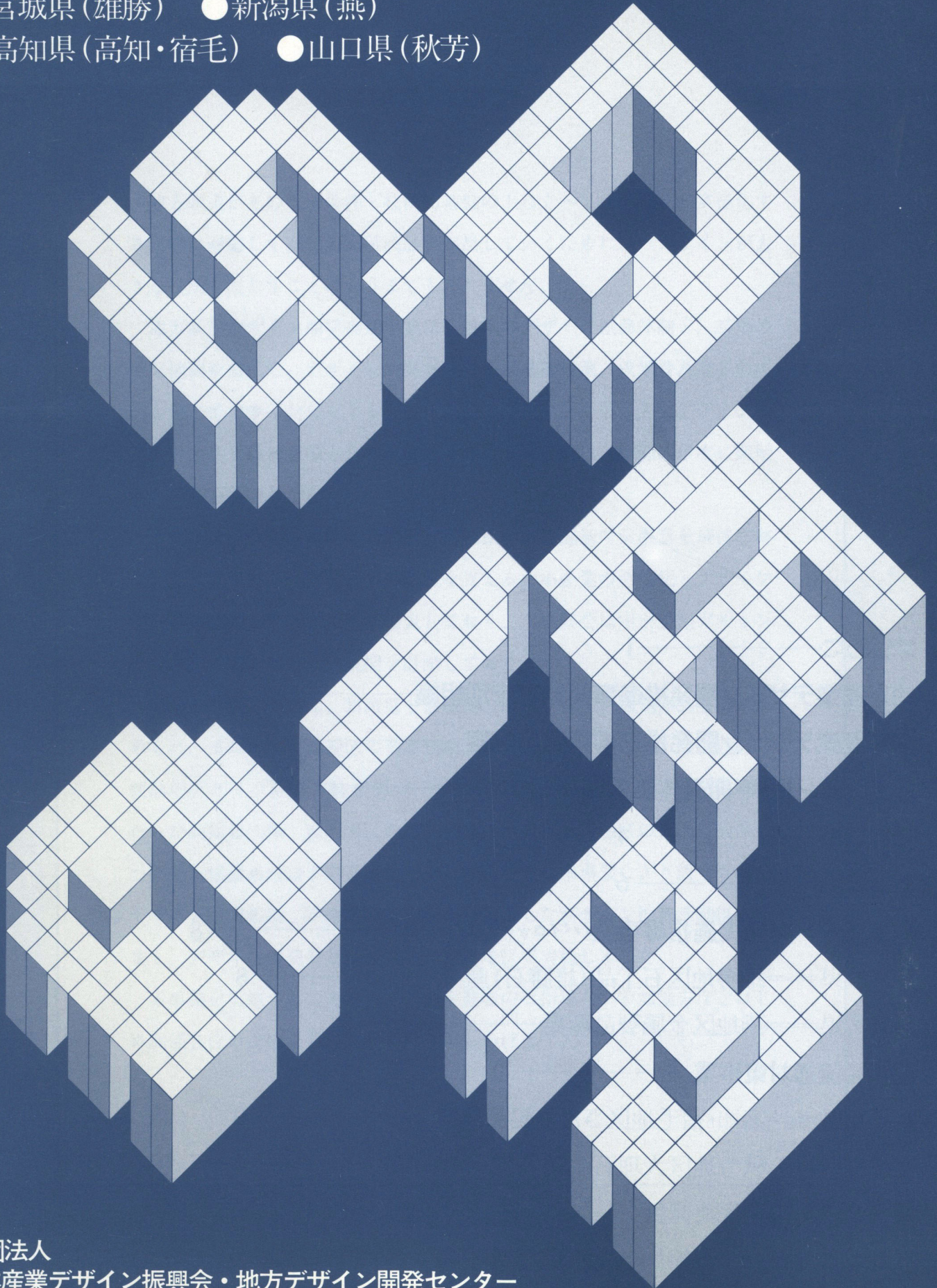


昭和60年度

地方産業デザイン開発推進事業報告書

- 宮城県(雄勝) ●新潟県(燕)
- 高知県(高知・宿毛) ●山口県(秋芳)



●目次

はじめに	1
地方産業デザイン開発推進事業地方庁別組織	2
地方産業デザイン開発推進事業実施内容	4
1 デザイン振興・開発体制整備事業	4
●宮城県	4
●新潟県	6
2 デザイン開発実施指導事業(パイロットデザイン計画)	8
●宮城県——雄勝地区石工品(雄勝石)産業	8
●新潟県——燕地区金属製品産業	8
3 市場流通対策事業	9
●高知県——高知・宿毛地区さんご製品産業	9
●山口県——秋芳地区大理石産業	10
4 デザイン開発普及講習会	11
5 地方産業デザイン振興活動推進事業	11

はじめに

地方産業がその立地条件と技術的基盤の上に立って、国際化・多様化する市場に対応して高付加価値商品を創出していくためには、デザインが大きな役割を果たすことはいうまでもありません。

地方産業デザイン開発推進事業は、各県のデザイン振興体制と、産地の開発体制を整備し、デザイン開発実施、市場流通対策、成果普及などの事業を通じてデザインに対する理解・認識の深化を図るとともにデザイン開発力を培養し経営資源として定着させることを目的に、昭和50年度に開始され10年を経過しました。

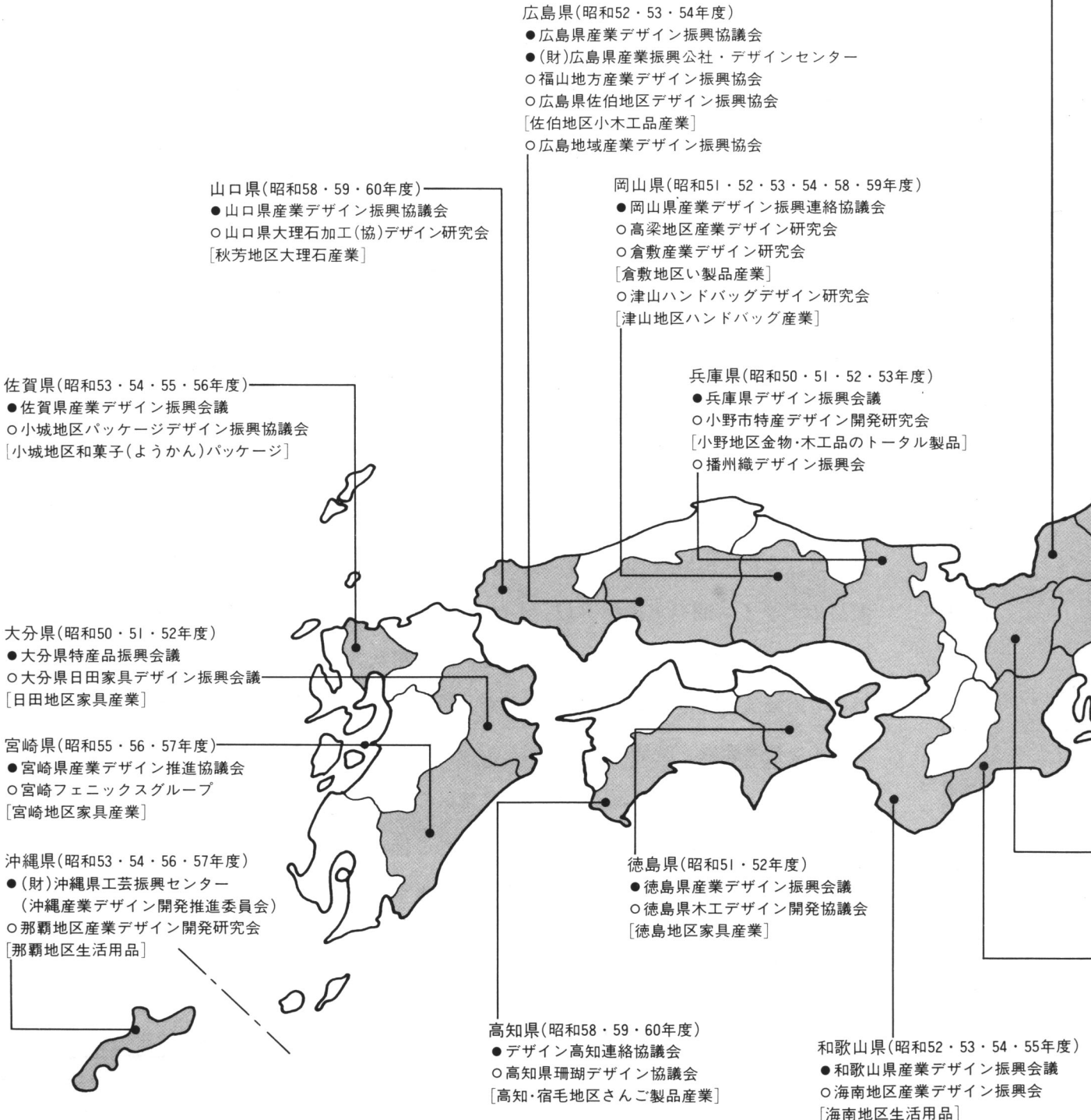
本事業は、昭和61年度の新潟県、宮城県の市場流通対策事業を最後に終了いたしますが、わが国経済の基盤を支える中小企業の活性化とデザイン開発推進の重要性はますます増大しており、当振興会は中小企業デザイン振興のための新たな活動展開を計画しております。

昭和60年度本事業は、新潟県と宮城県の産地デザイン開発体制整備が進められ、また新潟県燕地区の金属製品、宮城県雄勝地区の石工品(雄勝石)製品のデザイン開発実施指導が、また昭和59年度にデザイン開発実施を行った高知県高知・宿毛地区の珊瑚製品、山口県秋芳地区の大理石製品について市場流通対策事業を実施しました。さらに本事業により設立されたデザイン振興組織、産地の開発組織を対象としたデザイン振興活動推進事業と、デザイン開発普及講習会を全国各地で実施しました。

本事業を実施するにあたり、通商産業省のご指導と、参加地方庁をはじめ関係各位のご協力に対し厚くお礼申し上げます。

地方産業デザイン開発推進事業地方庁別組織

- デザイン振興組織
- 産地デザイン開発組織
- []—デザイン開発の対象





福井県(昭和50・51・52年度)
 ●福井県特産品デザイン協会
 ○福井県ジュニアフレーム流通センター
 [鯖江地区眼鏡枠産業]

岐阜県(昭和54・55・56・57・58・59年度)
 ●岐阜県デザイン振興会
 ○飛騨木工産業研究会
 [高山地区家具産業]
 ○岐阜県刃物技術デザイン協会
 [関地区金属洋食器・刃物産業]

石川県(昭和50・51・55・56年度)
 ●石川県デザイン振興会
 ○山中物産開発事業協同組合
 [山中地区プラスチック漆器産業]
 ○九谷焼デザイン開発推進委員会
 (九谷焼デザイン研究会)
 [加賀地区陶磁器産業]

富山県(昭和50・52・53・54年度)
 ●富山県デザイン振興対策協議会
 ○高岡銅器デザイン開発協議会
 [高岡地区銅器産業]

新潟県(昭和59・60年度)
 ●新潟県産業デザイン振興会
 ○燕地区産地デザイン研究会
 [燕地区金属製品産業]

北海道(昭和55・56・57・58年度)
 ●北海道産業デザイン振興会議
 ○旭川家具デザイン開発研究会
 [旭川地区家具産業]

秋田県(昭和51・52・53年度)
 ●秋田県デザイン振興協議会
 ○秋田杉デザイン開発研究会
 [能代地区秋田杉の多角利用]

岩手県(昭和53・54・55年度)
 ●岩手県産業デザイン振興協議会
 ○岩手県産業デザイン振興協議会・鉄器専門部会
 [盛岡・水沢地区鉄器産業]

宮城県(昭和59・60年度) ●宮城県産業デザイン振興連絡会議
 ○雄勝石産地デザイン振興会
 [雄勝地区石工品(雄勝石)産業]

長野県(昭和53・54・55年度)
 ●長野県地場産業デザイン開発協議会
 ○木曾漆器デザイン開発部会
 [木曾地区木製品産業]

栃木県(昭和51・52・53年度)
 ●栃木県産業デザイン振興会議
 ○栃木県育児遊具デザイン開発研究会
 [栃木地区育児遊具産業]

埼玉県(昭和54年度)

神奈川県(昭和51・52年度)
 ●神奈川県デザイン振興協議会
 ○神奈川県ファッション開発協議会

山梨県(昭和50年度)
 ●山梨県デザイン振興会議

静岡県(昭和50・51年度)
 ●静岡県産業デザイン協会
 ○静岡県輸出雑貨協同組合
 [静岡地区木製品産業]

滋賀県(昭和53・54・57・58年度)
 ●滋賀県産業デザイン振興協議会
 ○信楽焼産業デザイン開発研究会
 [信楽地区陶磁器産業]

三重県(昭和54・55・56・57・58・59年度)
 ●三重県地場産業デザイン振興会議
 ○四日市萬古焼デザイン開発協議会
 [四日市地区陶磁器産業]
 ○三重県タオルデザイン協議会
 ○三重県鋳物新製品開発協議会
 [桑名地区鉄鋳物産業]
 ○三重県組紐デザイン協議会

(組織名は実施当時の名称を使用)

地方産業デザイン開発推進事業実施内容

1 デザイン振興体制整備事業

宮城県

宮城県では、産業デザインの振興を図り、県内地場産業の発展と県民生活の質的向上とに資するため、「宮城県産業デザイン振興連絡会議」を昨年2月25日に設置し、各種事業を展開してきたが、本年度は産地体制として雄勝地区を対象に次の通り事業を実施した。

1. 雄勝石産地デザイン振興会の設立

①設立にあたっての基本方針(昭和60年6月20日)

地方産業が、その立地条件技術的基盤の上に立って、多様化する市場、生活意識の変化に応じた製品開発を進め、高付加価値商品を創出していくためにはデザインが大きな役割を果たすことはいうまでもありません。

このような中で昨年度より、(財)日本産業デザイン振興会と県の指導のもとに地方産業デザイン開発推進事業を行って来たが、そのためにまず産地内におけるデザイン振興体制を整備し、その開発母体となる産地デザイン振興会を発足させることになった。

この振興会は雄勝石デザインに対する理解と認識を深めるとともに、雄勝石のデザイン並びに技術開発について調査・研究開発を促進することにより、雄勝地区における地場産業の育成と健全な発展を図ることを目的としている。この振興会における運営にあたって当会は、地方産業デザイン開発推進事業に合せ、本年度は、実際に商品開発、デザイン開発を専門家と共同で行うことにより、その進め方、方法を学び取り、産地が体験学習することにより、短期間に商品デザイン開発の経営資源を産地自身のものとするパイロット・デザイン開発事業を行う。来年度は、パイロット・デザイン開発事業により開発された試作品について、展示会を開催し、流通業界、消費者の反響を求めるとともに、製品化、商品化を進めるための調査・研究する市場流通対策事業を行う。

さらにその後は、地方産業デザイン開発推進事業によって産地が得た知識を活用して、本振興会独自の商品開発、デザイン開発事業を行っていく予定である。

②事業の実施方法と会議運営の特徴

(1) 班編成を実施

- 少人数で動き易くした。

- 各班毎の競争意識を出させた。
- 各班毎に特徴を出せる製品開発にした。
(設備の有る班、無い班)

(2) 会長を若い人にした

今回の事業を推進するため、産地の体制を新たに設置したが、大部分の人々は、雄勝硯生産販売協同組合のメンバーで構成される。この点を踏まえ次の理由等により若い人を会長とした。

- 「雄勝硯の振興」と「雄勝石を用いての硯以外の商品開発」と全く違った事業だけに区分をはっきり分ける意味においても、会長等は、組合の役員以外の人とする。
- 新しい商品開発(デザイン開発)という事業内容から、若い柔軟な考えを入れるうえでも出来る限り若い人に対応する。
- 事業は振興会全体で行うが、実際には全員でデザイナーと打ち合せしながら作業することは困難な面もあるので、作業の第一線で実際に従事出来る人を選んで置きたい。(会長を含めて)

(3) 異業種の交流

今回の事業には、硯組合の人以外の鉄工業、造船業、ポゾラン製造業などの人が入りっておりバラエティに富んだ構成となっている。特に鉄工業の人には、今回のデザイン開発の技術的な面において中心的な役割を担っていた。ポゾラン製造業についても、今年は

直接製品開発まで結びつかなかったが、その技術を使つての製品開発は、具体性があり他の業種との交流におけるデザイン開発を積極的に進めている。

(4) デザイナーが二人

製品開発実施指導事業におけるデザイナーと市場流通対策事業におけるデザイナーを別々に当初から決めており、市場流通対策事業におけるデザイナーには、製品開発から市場流通へつなげる意味でオブザーバーとして製品開発から関与していただいた。

製品開発 荻野克彦デザイナー
市場流通 斎藤実デザイナー(地元)

●雄勝石産地デザイン振興会の構成

採石業	5名	組合員
自宅硯工人	10名	
工場内工人	8名	
販売業者	14名	
鉄工業	1名	非組合員
造船業	1名	
ポゾラン製造業	1名	
計	40名	

グループ編成(各グループに班長をおく)

(1) 積層を作るグループ	3名
(2) 大物を作るグループ	8名
(3) 中物を作るグループ	12名
(4) 小物を作るグループ	8名
(5) ポゾランを作るグループ	9名



●雄勝石産地デザイン振興会規約

第1章 総則

(目的)

第1条 本会は、雄勝石デザインに対する理解と認識を深めるとともに、雄勝石のデザイン並びに技術開発について調査・研究開発を促進することにより、雄勝地区における地場産業の育成と健全な発展を図ることを目的とする。

(名称)

第2条 本会は、雄勝石産地デザイン振興会と称する。

(事務局)

第3条 本会の事務局は、雄勝硯生産販売協同組合事務所内に置く。

第2章 事業

(事業)

第4条 本会は、第1条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) デザイン並びに技術に関する情報の収集と調査研究
- (2) 講習会・研究会の開催
- (3) デザイン研究の試作検討会開催
- (4) 試作品の発表会開催
- (5) その他、本会の目的を達成するために必要な事項

第3章 会員

(会員の資格)

第5条 本会の会員の資格は、次の要件を備えるものとする。

- (1) 雄勝硯生産販売協同組合の組合員
- (2) 雄勝石デザインに関係ある商工団体及び関係行政機関
- (3) 雄勝地区にあって、雄勝石デザインに関心のあるもの

(会費)

第6条 会費は、総会の定めるところによる。

第4章 役員及び顧問

(役員)

第7条 本会に次の役員を置く。

会長1名、副会長2名、理事若干名、監事2名
(役員の任期)

第8条 役員は、任期は、2年とし、再任を妨げない。

(役員選出)

第9条 理事及び監事は、総会において選出する。会長・副会長は理事の互選とする。

(役員職務)

第10条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。

3 理事は、理事会を組織し、本会の事業執行について審議する。

4 監事は、本会の会計を監査する。

(顧問)

第11条 学識経験者及び関係機関のうちから顧問を委嘱することができる。

第5章 総会・理事会

(総会)

第12条 総会は、通常総会及び臨時総会とし、会長が、招集する。

(総会の議決事項)

第13条 総会は、次の事項を議決する。

- (1) 規約の改正
- (2) 事業計画及び収支予算
- (3) 事業報告及び収支決算

(4) 役員専任

(5) その他、理事会で必要と認められた事項
(理事会)

第14条 理事会は、会長が必要と認められたとき、または理事の3分の1以上の要求があったときに開催し、次の事項を審議する。

- (1) 会務の執行に関する事項
- (2) 総会に提出する議案
- (3) その他、必要な事項

(会議の開催及び議決)

第15条 会議は、出席者によって構成し、その過半数をもって議決する。可否同数の場合は、議長が決するところによる。

第6章 会計

(本会の経費)

第16条 本会の経費は、会費、助成金及びその他の収入をもってこれにあてる。

(会計年度)

第17条 本会の会計年度は毎年4月1日から始まり、翌年3月31日終るものとする。

第7章 その他

(規約外規定事項)

第18条 本規約で定めるもののほか必要な事項については、理事会において定める。

付則

- 1 この規約は、昭和60年7月1日から施行する。
- 2 本会の設立当初の会計年度は、設立の日から昭和61年3月31日までとする。

●振興会の組織構成員

1. 個人会員 40名

- ①雄勝硯生産販売協同組合の組合員 37名
- ②雄勝地区にあって、雄勝石デザインに関心のあるもの 3名

2. 団体会員 2団体

雄勝町
雄勝町商工会

3. 顧問

宮城県工業技術センター

2. 雄勝石デザイン開発実施指導事業の内容

第1回会議 (昭和60年7月2日～4日)

- 現地実態調査
- 事業説明と担当デザイナー紹介

第2回会議 (昭和60年8月26日～27日)

- 市場流通調査の内容検討
- デザイン開発領域の検討

第3回会議 (昭和60年10月25日)

- 市場流通調査中間報告
- デザイン開発品目の設定と図面検討

第4回会議 (昭和60年12月11日～12日)

- 市場流通調査中間報告 (スライド上映)
- デザイン開発試作品の検討と修正

第5回会議 (昭和61年1月22日～23日)

- 最終図面の提示と試作品の検討
- 製品試作指導

第6回会議 (昭和61年3月17日～18日)

- デザイン開発実施報告会
- 市場流通調査結果報告

3. 宮城県産業デザイン振興連絡会議の開催

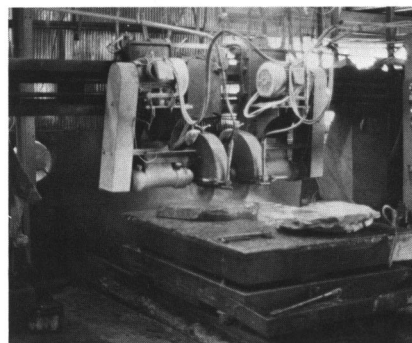
第1回専門委員会の実施 (昭和60年9月26日: 仙台商工会議所会館)

(1) 「宮城県産業デザイン振興連絡会議基本方針」について

基本方針案を事務局から提案したが、もう少し具体的な内容を検討の上、決定すること、次回に持ち越した。

(2) 「県内地場産業のデザイン開発状況及び県内デザイン事務所実態等調査」の実施結果について

昭和60年3月に県商工振興課で調査した結果を説明した。



新潟県

新潟県の地場産業は、金属製品、繊維製品、工具、木工品等多岐に亘っているが、昨年設立された「新潟県産業デザイン振興会」が母体となり、デザイン開発、デザイン保全、産地におけるデザイン意識の啓蒙等各種事業を展開してきたが、本年度は、燕地区を対象に地域産業における中小企業のデザイン開発能力を育成し、デザイン開発の推進を図るとともにデザインに対する正しい認識のもとで新商品の開発を進めることによって地域事業の振興に寄与することを目的に「燕地区産業デザイン研究会」が設立された。同研究会の概要と、他産地での事業を次の通り実施した。

1. 燕地区産業デザイン研究会の設立

●設立の趣旨（昭和60年6月11日）

燕地区を中心とする金属製品産業とその関連産業を取りまく環境は、国内市場の飽和化による販売競争の激化、消費者ニーズの個性化・高度化・多様化による需要不振など、厳しいものになっています。今後とも、地域産業が存続・発展していくためには、社会環境や消費者の生活意識に的確に対応した新商品の開発と、その販路の開拓を積極的に進めることが、大きな課題といえます。

具体的な対応は多岐にわたりますが、特に高付加価値商品を創出するデザイン開発は、商品企画、生産、流通、販売のそれぞれにかかわり、新商品開発の重要な位置を占めます。

このような背景を受けて、地域産業における中小企業のデザイン開発能力を育成し、デザイン開発の推進を図るとともに、デザインに対する正しい認識のもとで新商品の開発を進めることによって、地域産業の振興に寄与する目的で「燕地区産業デザイン研究会」を設立する。

●燕地区産業デザイン研究会規約

(名称)

第1条 本会は、燕地区産業デザイン研究会と称する。

(事務局)

第2条 本会の事務局は、燕市新産業誘致開発機構内に置く。

(目的)

第3条 本会は、燕地区を中心とする金属産業及

びその関連産業における中小企業のデザイン開発能力を育成し、新分野デザイン開発の推進を図るとともに、デザインに対する正しい理解と認識を啓発し、以て、地域産業の振興に寄与することを目的とする。

(事業)

第4条 本会は、第3条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) デザインの高度化の推進、開発能力の育成
- (2) デザインに関する情報の収集、調査、及び研究
- (3) 講習会、研究会の開催
- (4) デザインの試作、求評、商品化、販売戦略
- (5) 国及び県のデザイン振興開発事業の推進及び協力
- (6) その他本会の目的を達成するために必要な事項

(会員)

第5条 本会は、第3条の目的に賛同して入会した次の者をもって構成する。

燕地区を中心に金属産業及びその関連業を営む事業所又は個人。

(会費)

- 第6条 会費は、総会の定めるところによる。
2. 退会した会員が既に取めた会費は、返却しない。

(役員)

第7条 本会に次の役員を置く。

- 会長1名、副会長3名、理事10名、以上15名以内（会長及び副会長を含む）、監事2名
2. 理事及び監事は、総会において選任する。
 3. 会長及び副会長は、理事の互選による。
 4. 役員の任期は2年とする。但し、再任を妨げない。

(職務)

- 第8条 会長は、本会を代表し、会務を統括する。
2. 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
 3. 理事は、理事会を組織し、本会の事業執行について審議する。
 4. 監事は、本会の会計を監査する。

(顧問)

- 第9条 本会に顧問を置くことができる。
2. 顧問は、理事会の同意を得て、会長が委嘱する。
 3. 顧問は、この会の重要事項について、意見、助言することができる。

(総会)

第10条 総会は、通常総会と臨時総会とし、会長が招集する。

2. 総会は、この規約に規定するもののほか、次の事項を議決する。
 - (1) 事業計画及び収支計画
 - (2) 事業報告及び収支決算
 - (3) 規約の変更
 - (4) その他本会の運営に関する重要な事項
3. 総会の議事は、会員の半数以上が出席し、その過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところとする。

(理事会)

第11条 理事会は、会長が必要と認めるとき、また理事の3分の1以上の要求があったときに開催し、次の事項を審議する。

- (1) 会務の執行に関する事項

- (2) 総会に提出する議案
 - (3) その他必要な事項
2. 理事会の構成員は、会長、副会長、理事とする。
- (推進委員会)

第12条 本会の事業を積極的に推進するため推進委員会を設ける。

2. 推進委員会の構成員は、希望する会員とする。
3. 会長が必要と認めた場合、会員以外の者を推進委員会の構成員とすることができる。
4. 推進委員会内に部会を設けることができる。

(会計)

第13条 本会の経費は、会費その他の収入をもってこれにあてる。

2. 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日までとする。ただし、設立年度の会計年度は、設立の日から昭和61年3月31日までとする。

(その他)

第14条 本規約で定めるものの他、必要な事項は、理事会において別に定める。

付 則

1. この規約は、本会が設立された日から施行する。

●研究会の構成

会員	57社
顧問	6名（新潟県他）
推進委員	33社（会員57社の中から構成）

2. 燕地区産業デザイン研究会活動概要

産地体制整備打合せ会議(昭和60年5月7日)
デザイン研究会設立準備打合せ会

(昭和60年5月23日)

燕地区産業デザイン研究会設立準備委員会
(昭和60年6月3日)

” 設立総会

(昭和60年6月11日)

第1回推進委員会(昭和60年7月17日)
デザイン事務所との懇談会

(昭和60年7月18日)

第2回推進委員会(昭和60年8月27日)

第3回推進委員会(昭和60年9月3日)

第4回推進委員会(昭和60年9月19日)

第5回推進委員会(昭和60年11月4日)

デザイン事務所との打合せ会

(昭和60年11月19日)

第6回推進委員会(昭和60年11月28日)

第7回推進委員会(昭和61年2月3日)

第8回推進委員会(昭和61年2月21日)

燕地区産業デザイン研究会理事会(昭和61年3月15日)

3. デザイン講習会の実施

デザイン意識の啓蒙と、本事業についての理解を高めるため産地各に商品企画・開発を中心とした講習会を実施した。

開催日 昭和61年3月8日(土)
 地区・会場 小千谷織物同業協同組合研修室
 講師 一ノ瀬善秋(ラポール商品研究所代表)
 主たるテーマ 商品に生かす色・いろ戦略
 受講者 県内繊維関係業界他

開催日 昭和61年3月19日(水)、20日(木) 15:30~17:30
 地区・会場 村上商工会議所大会議室
 講師 宇佐波徳美(有ウサナミデザイン研究所代表)
 主たるテーマ 商品開発とこれからの販売戦略
 受講者 県内木工関係業界他

開催日 昭和61年3月27日(木)
 地区・会場 栃尾織物工業協同組合会議室
 講師 竹中町子(有プラ・パール代表)
 主たるテーマ ファッション動向と商品企画
 受講者 県内繊維関係業界他



年度別デザイン開発実施指導事業・実施機関

実施年度	対象地区	開発対象・テーマ	デザイン事務所(代表)	調査会社
50	静岡県・静岡 石川県・山中	木製品●パーソナルな小さな家具 プラスチック漆器●器(Uライン)	有ウサナミデザイン研究所(宇佐波徳美) 株式会社デザインセンター(柴田献一)	株式会社人間機能研究所 株式会社GKインダストリアルデザイン研究所
51	福井県・鯖江 徳島県・徳島 大分県・日田	メガネフレーム●ジュニアメガネフレーム 家具●収納システム 家具●リビング・ダイニング・コーディネートシステム	株式会社D産業デザイン研究所(多田愛実) 有山口デザイン事務所(山口勇次郎) テキスタイル・アートスタジオ(山岸征史)	株式会社人間機能研究所 株式会社ビデオ・リサーチ 株式会社社会調査研究所
52	秋田県・能代 栃木県・栃木 兵庫県・小野	木製品●秋田杉の多角利用 育児玩具●変化する玩具の提案 金もの+木工品●セパレーターを主体にしたインテリア用品	株式会社豊口デザイン研究所(豊口協) 株式会社平野拓夫デザイン設計事務所(平野拓夫) 株式会社サン・デザイン(青木信重)	株式会社ビデオ・リサーチ 株式会社流通経済研究所 株式会社社会調査研究所
53	富山県・高岡 岡山県・倉敷 広島県・佐伯	銅器●オフィス空間における鑄造製品の展開 い(草)製品●い(草)製品の織り組織を主とした展開 小木工品●テーブルウェア・デスク用品、照明器具	有白井デザイン研究所(白井良和) 株式会社剣持デザイン研究所(松本哲夫) 有製品デザイン研究所(知久篤)	株式会社総合調査統計研究所 株式会社社会行動研究所 株式会社流通経済研究所
54	長野県・木曾 岩手県・盛岡、水沢 和歌山県・海南	木製品●卓 鉄器●業務用テーブルウェアの展開 生活用品●くつろぎの小道具	株式会社デザインセンター(柴田献一) 株式会社鴨志田デザイン事務所(鴨志田厚子) 株式会社ワイエスデザイン(吉川博教)	株式会社日本リサーチセンター 株式会社綜研 株式会社社会行動研究所
55	石川県・加賀 三重県・四日市 佐賀県・小城	陶磁器●新しい生活の中の日用食器の開発 陶磁器●テーブルクッキングを目的とする調理食器 パッケージ●和菓子のパッケージデザイン	モノプロ工芸(羽生道雄) 株式会社中部デザイン研究所(舟橋辰朗) 株式会社YAOデザイン研究所(八尾武郎)	株式会社日本リサーチセンター // 株式会社日本リサーチ総合研究所
56	岐阜県・高山 宮崎県・宮崎 沖縄県・那覇	家具●食事周辺の複合化を演出する家具類 家具●宮崎家具における新伝統主義の提案 生活用品●暮しの器と団らんのために	有川上デザインルーム(川上元美) 株式会社ヌルハウス(安達譲治) 有生活の木(三浦勇)	株式会社コミュニケーション科学研究所 // 株式会社日本リサーチ総合研究所
57	北海道・旭川 滋賀県・信楽	家具●ASAHIKAWA FURNITURE計画 陶磁器●インテリア・リビングとしての環境陶器	株式会社あとりえむに(岩倉榮利) 株式会社環境デザイン研究所(仙田満)	住友ビジネスコンサルティング(株) 株式会社ジェイ・エム・アール東京
58	岐阜県・関 三重県・桑名 岡山県・津山	金属洋食器●刃物●アウトドア用品、デスクウェア 鋳鉄物●フェンスブロックシステム ハンドバッグ●4グループ(シティーエレガンス、ラギッド、メンフィス、サイ)	株式会社浜野商品研究所(浜野安宏) 株式会社デザインセンター(柴田献一) 株式会社D産業デザイン研究所(多田愛実)	住友ビジネスコンサルティング(株) // 株式会社リサーチアンドデザイン研究所
59	高知県・高知、宿毛 山口県・秋芳	さんご製品●ゲーム、アクセサリ、小物箱 大理石●テーブルウェア、インテリア小物、照明器具	株式会社浜野商品研究所(浜野安宏) 株式会社IDKデザイン研究所(喜多俊之)	株式会社日本リサーチセンター 株式会社リサーチアンドデザイン研究所
60	宮城県・雄勝 新潟県・燕	石工品(雄勝石)●デスクウェア 金属製品●新しい調理ウェア	有インプティエーダンブティエー(荻野克彦) 株式会社フウ未来生活研究所(大谷由美子)	住友ビジネスコンサルティング(株) 株式会社日本コンサルタントグループ

宮城県 雄勝地区石工品(雄勝石)産業のデザイン開発

デザイン (株)ハンプティアーダンプティアー (代表萩野克彦)
東京都中央区京橋2-7-7
Tel.03-567-6715 〒104

《概要》

パイロットデザインの作成にあたり、雄勝石(玄昌石)という素材をモノにおきかえるという発想のもとに、玄昌石の特異な性質(石目に対して垂直方向の強度はあるが、水平方向には非常に弱い)に対し、技術的問題を解決するため、科学的な調査から始めた。

それらをもとに、円形、三角形、四角形と三つの基本形から(石を一つの塊りとして見る)、照明器具、デスクウエア、テーブルウエア等へ展開していった。同時に、カラーリング、象嵌、集積、他素材との組合せ等も試み、石の持つ可能性を追求した。

対象となる製品の設定については、「石」を素材とした生活必需品という前提において、ターゲットとされるシルバーエイジ、アダルトレディの購買、利用範囲を配慮した。

主に、「デスクウエア」——メモスタンド、

ライター、タバコ入れ、ミラー、灰皿、朱肉入れ、時計「テーブルウエア」——プレート、コースター、「照明器具」——フロアスタンド、ベットサイドランプ、等のパイロットデザイン開発を行った。

調査 住友ビジネスコンサルティング(株)
東京都千代田区神田神保町2-17
神田神保町ビル2F
Tel.03-264-7351 〒101

《実施概要》

近年、生活の洋風化は一段と進み、嗜好の多様化も著しいものがあり、今後、石を材料とした「生活道具」がマーケットに受け入れられる可能性が考えられる。

それで、硯以外の材料としてはあまり注目されることの少なかった素材を「生活の道具」としてとらえなおし、新しい製品の展開をしていくことの可能性についての開発需要調査を始めた。

調査対象アイテムは、照明器具、デスクウエア、テーブルウエア、傘立を取り上げ、そ

れぞれの使用される「場」について、また、業界動向、他産地の動向等の調査も行い、特に石の先進産地である山口県秋芳地区の大理石加工工業の実態調査と分析を行い、産地形成を目指す雄勝にとって学ぶべき点が得られた。

以上の結果として、今後消費の重点が住生活「台所まわり」「自分専用の部屋」「居間・リビング用家具」等におかれており、インテリアとして石という素材が、今後市場に新規参入できる可能性が確認できた。

新潟県 燕地区金属製品産業のデザイン開発

デザイン (株)フウ未来生活研究所
(代表大谷由美子)
東京都墨田区両国4-7-10
ヴィラロイヤル第2 両国603
Tel.03-632-2767 〒130

《概要》

パイロットデザインの作成にあたり、開発テーマを「食生活マネジメントツールとしての金属食道具」とし、食生活全体の流れの中で機能、行動本位に総合的に考えられた汎用性のある食道具の開発を基本コンセプトに進めた。

具体的には、生活サイドからのいくつかの分類を行い、それぞれをモノ開発へと展開。

①購入スタイルの変化に対応する

●新しい購入スタイル——留守にしているも必要な生活用品、食品が受けとれる宅配システム。——〔宅配ボックス〕

②少量多品種調理のシステムウエア(調理、食卓、保存、収納の循環)

●新しい調理ウエア——ボールであり、ナベであり、食卓鉢であり、保存容器である。——〔1器多様性〕

③動く収納保存(冷蔵庫——食卓、キッチン——食卓)

●新しい収納保存容器——お皿・鉢と引き出しをドッキング——〔プレートホルダー〕〔乾燥ボックス〕

④動く収納管理(これだけあれば卓上調理もキッチンもOK)

●新しい食道具——キッチンでもテーブルでも兼用できるもの——〔らくらくスプーン〕〔立つおたま〕……

以上の点から新しい調理ウエアのデザイン開発を行った。

調査 (株)日本コンサルタントグループ
東京都新宿区下落合3-22-15
Tel.03-952-0111 〒161

《実施概要》

燕地区の製品分野は多岐に渡っているが、この調査では、「食生活の関連分野」に重点を置き、その中で金属特に、「ステンレス製品」について調査を進めた。

これら「食関連材」(食生活に関連する道具・材料)は主婦が最も良く使用し、身近か

に扱えていると考えられ、調査では、家庭の主婦(新しい生活ニーズを生むと思われる20~40才)を対象とした。

大きく分けて、「食生活の意識」「食関連材の利用上の意見」「素材としての金属・ステンレスへの評価」の3つの調査を組み、全体として、食関連材における金属・ステンレス製品の新しい商品開発ニーズを探ろうと試みた。調査結果として、

①食関連材で生活を楽しむという水準に至っていないのではないか。

A. どう楽しめば良いかわかっていない。

(生活・楽しさの提案)

B. どんなものがあるのかもわかっていない。(わかりやすい商品・売り方)

C. 今、もちすぎている

(「食」の回りをトータルで演出)

②商品に対するニーズは、より効率的に家事を行なえるという「利便性」が非常に強いと見られる。

A. 汎用性のある、多機能なもので、自分で工夫しながら使っていく。

B. 収納性や整理のし易さが求められている。が得られた。

高知県 高知・宿毛地区珊瑚製品産業

1. 事業の実施内容

昨年度、(株)浜野商品研究所(浜野安宏氏)の協力を得て、パイロットデザインを実施したが、本年度は流通対策会議に重点を置き、今後の市場展開、一般消費者の反響を求めため、産地で毎年開催している「第18回土佐さんごまつり名作コンテスト」において、試作品の内示会を行い、流通専門家の反響を求めた。また、内示会の期間中に百貨店の専門家を中心に求評会を開催し、今後の市場展開への指針を得た。

2. 内示会開催状況

テーマ=パイロットデザイン試作品展
会期=昭和61年2月21日(金)~26(水)

会場=とでん西武百貨店6階催場
「第18回土佐珊瑚まつり」会場内
主催=(財)日本産業デザイン振興会
高知県珊瑚デザイン協議会
協力=全高知珊瑚協同組合連合会
宿毛珊瑚協同組合
(株)浜野商品研究所
(株)日本リサーチセンター
展示内容=ネックレス、イヤリング、チェス、
ブレスレット、ゲーム

3. 試作品求評会

日時:昭和61年2月22日(土)15:00~17:30
場所:土佐会館(高知市)
講師:
喜田照正 (株)大丸本社デザイン室技術課長

中山あや (株)スタジオ・あや代表取締役
阿久津扶見 (株)インターナショナルジュエリーアート代表取締役
富家恵海子 (株)日本リサーチセンター主任研究員

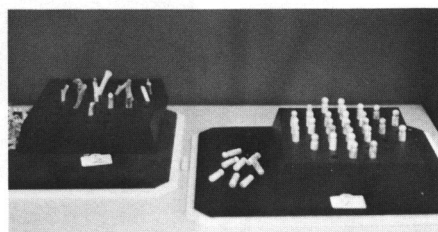
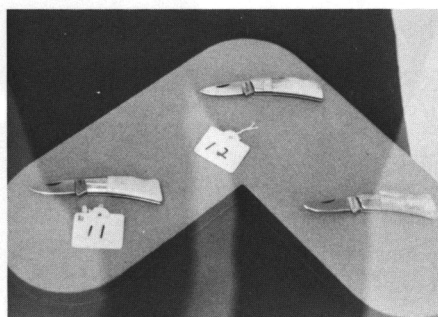
内容=求評会は、高知県、県工業試験場、珊瑚業界、日本産業デザイン振興会及び講師を含め20数名が参加して行われた。

講師講評に先立ち、産地側より現在までの実施経過と今回の内示会の概要報告があった。引続き各講師からは①イメージチェンジと広報、②販売ターゲットを明確にした上での商品開発、③価格などの課題についての発言があり、珊瑚の希少価値をもっと消費者に理解してもらう努力が必要であることを強調した。

▼土佐珊瑚まつり



▼求評会風景



山口県 秋芳地区大理石製品産業

1. 事業の実施内容

昨年度(株)I.D.K.デザイン研究所(喜多俊之氏)の協力を得て、パイロットデザインを実施したが、本年度は流通対策会議に重点を置き、今後の市場展開、一般消費者の反響を求め、産地で毎年開催している「第5回大理石・オニックスまつり」の会場内にパイロットデザイン試作品コーナーを設置し、事業紹介を含め試作品をほぼ全点出展した。内示会は、東京で開催され、「全国産地グランドフェア'86」にコーナー出展し、消費地、流通専門家の反響を求めた。また、内示会の会期中には百貨店の専門家を中心に求評会を開催し、今後の市場展開への指針を得た。

2. 内示会開催状況

テーマ=「3億年の結晶」パイロットデザイン開発試作品展

会期=昭和61年2月8日(土)~11日(火)
 会場=東京都立産業貿易センター本館3F
 「全国産地グランドフェア'86」会場
 山口県展示コーナー内
 主催=財団法人日本産業デザイン振興会
 山口県大理石加工(協)デザイン研究会
 協力=山口県、秋芳町、美弥市、美東町、
 (株)IDKデザイン研究所
 (株)リサーチアンドデザイン研究所
 指導=通商産業省
 展示内容=デスクウエア、照明器具、テーブル、時計、テーブルウエア、フルーツ

3. 試作品求評会

日時:昭和61年2月8日17:30~20:00
 場所:弥生会館(東京都港区)
 講師:城福維伸 (株)大丸本社デザイン室長

外山修久 (株)西武百貨店商品部
 野瀬田咄生 (株)高島屋営業6部部次長
 廣野照之 (株)伊勢丹研究所
 衣笠肇 (株)IDKデザイン研究所
 内容=求評会は、山口県、県商工指導センター、大理石業界、日本産業デザイン振興会及び講師を含め20数名が参加して行われた。商工指導センターから代理石業界の現況と実施経過の報告があり、続いて、パイロットデザインを担当した(株)IDKデザイン研究所からデザインの狙いと今後の展開についての説明があった。

講師講評では、①最近インテリア素材として大理石が注目されてきていること、②異素材との組合せによる展開、③機能性とデコールのトータルな展開で生活のイメージづくり、④販売ターゲットの明確化と売場展開の課題、⑤問題のギフト用品より1ランク上の商品展開、⑥トータルデザインとシリーズ化など流通の立場から積極的な意見が出された。



4 デザイン開発普及講習会

。市場の国際化、多様化が進展する中において、地方産業におけるデザイン開発の重要性はますます高まってきている。本講習会を通

してデザインに対する理解と認識を深め、デザイン振興諸事業の促進と、産地、中小企業のデザイン開発基盤の強化を図ることを目的

に、各地区の行政・商工団体及び産地業界を対象に専門家を派遣し、全国8地区においてデザイン開発普及講習会を開催した。

開催日	地区・会場	講師	主たるテーマ	受講対象
60.12.5	北海道女満別町・女満別商工会	八尾 武郎	地域における食料品・土産品のパッケージデザインの課題	網走支庁管内食料品製造・販売業界および行政・商工等関係団体
61.1.21	広島県福山市・福山商工会議所	三島 彰	地方産業のグランドデザインについて	福山地区中小企業経営者および行政・商工等関係団体
2.14	和歌山県海南市・海南商工会議所	三浦 勇	生活用品のデザイン開発事例 (那覇地区における暮しの器と団らんのために)	海南地区漆器業界
2.21	香川県高松市・四国通商産業局	吉川 博教	地方デザイン開発の推進に係る問題点と今後の課題	中国・四国地区デザイン行政担当者
2.28	愛知県名古屋市中区・名古屋通商産業局	寺 光彦	国際化時代を迎えた地域デザイン振興	中部地区デザイン行政担当者
3.24	福岡県福岡市・福岡通商産業局	沢村 徹	デザインマネジメントとC.I	九州・沖縄地区デザイン行政担当者
3.26	熊本県八代市・八代市役所	秋岡 芳夫	い(草)製品のデザイン開発について	県内い(草)製品業界
3.27	鳥取県鳥取市・社会教育福祉会館	服部 守久	情報収集、商品企画、デザイン開発の展開について	県内関係業界、商工団体

●講師

- 八尾 武郎 (株)YAOデザイン研究所
代表取締役
- 三島 彰 現代構造研究所
常務理事・所長
- 三浦 勇 三浦セラミッククラフト工房
主宰
- 吉川 博教 (株)ワイエスデザイン
代表取締役
- 寺 光彦 名古屋造形芸術短期大学学長
- 沢村 徹 (株)沢村デザイン研究所
代表取締役
- 秋岡 芳夫 共立女子大学教授
- 服部 守久 (株)博報堂生活総合研究所
主席研究員

▼名古屋普及講習会



5 地方産業デザイン振興活動推進事業

本事業により設立、設置されたデザイン振興機関、地方デザイン振興団体のより一層の活動推進と、産地におけるデザイン意識の高揚が図れるよう、専門家を派遣し、会議、講演会の開催を通じて、デザイン振興、デザイン開発に対する助言、提案を行った。

実施日	地区 / 会場	対象組織 / 受講者	講師
61.2.24	福井県・勝山市 奥越地域地場産業振興センター	福井県特産品デザイン協会 ／奥越地区関係業界	山岸 桓史 (テキスタイルアートスタジオ代表)
3.19	岐阜県・笠松町 岐阜県工業技術センター	岐阜県デザイン振興会 ／振興会会員	吉川 博教 (株)ワイエスデザイン代表取締役

●地方産業デザイン開発推進専門委員

豊目 協 (株)豊口デザイン研究所 代表取締役
東京都目黒区碑文谷5-15-1
Tel. 03-792-6791 〒152

城福 維伸 (株)大丸本社デザイン室長
大阪市南区東清水町44
Tel. 06-282-1254 〒542

野瀬田 咄生 (株)高島屋 営業第6部部次長
東京都中央区日本橋2-4-1
Tel. 03-211-4111 〒103

多田 愛実 (株)D産業デザイン研究所 代表取締役所長
大阪市西区西本町2-3-6山岡ビル4F
Tel. 06-531-5311 〒550

三島 彰 現代構造研究所 常務理事・所長
東京都港区元赤坂1-4-2知性ビル
Tel. 03-403-8487 〒107

八尾 武郎 (株)YAOデザイン研究所 代表取締役
東京都新宿区本塩町9-3司法書士会館
Tel. 03-357-3686 〒160

昭和60年度

地方産業デザイン開発推進事業報告書

昭和61年3月発行

●編集・発行

財団法人日本産業デザイン振興会・地方デザイン開発センター

〒105 東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル別館4階

Te1.03(435)5633(代)／03(431)0714(直通)

●レイアウト：(株)マサ・クリエイティブ

●印刷・製本：(株)サンニチ印刷